



横浜陶芸友の会だより

第 175 号
令和元年
11 月 25 日発行

役員会の報告

総務部より

11 月 16 日 (土) 15 時 30 分より

会長・副会長・各役員 5 名で話し合いました。

(当初、予定の 10 月 12 日は台風 19 号のため

延期、この日に変更になりました)

○事業部 第 41 回「作品展」について

会場・日程 決定

○専修部 秋期焼成会の報告

○広報部 7 月「友の会たより」発行

11 月末「友の会たより」発行予定

○総務部 11 月末友の会たより

「作品展のご案内」発送予定

○会計部 次回 (2020 年 2 月) 役員会にて

各部会計 中間報告提出

◎今年 は台風の多い年でした。

皆様、被害は無かったですでしょうか？

令和元年もあと一ヶ月あまりとなりました。

作品展で皆様の作品を拝見できる事、お会

いできる事を楽しみにしております。

『第 41 回 作品展』のお知らせ

次回 役員会 予定

日時…令和 2 年 2 月 29 日 (土) 15 時 30 分

場所…杉田地区センター 集会室 A



今年もまた「作品展」の申込みの時期がやってまいりました。

皆さま、作品の準備はもうお済みですか？

まだ、これから焼成ですか？

まだまだ間に会いますよ。

会員の方も高齢化が進み作品作りも大変になってきた感もありますが、一つでも二つでも楽しんで作った作品を皆様に御披露してください。

お互いの作品を見ながら「陶芸談義」に花を咲かせましょう。

『作品展』の会場は、東神奈川駅に隣接する「かなつくホール」です。

申し込み方法と作品展の詳細については、会報の 11 月号と一緒に会員の皆様に送付いたしました。

※今年度も、高橋会長の肝いりで

「作品の制作等についての発表会」を

日曜日 15 時から予定しております。

☆ 搬出日は早めに来場いたしましょう

【会期】令和 2 年 1 月 14 日 (火) ～ 19 日 (日)

【会場】かなつくホール A 室

(JR 東神奈川駅 下車 3 分)

【特設コーナー】「二輪差し」

【申し込み締切り】令和 2 年 1 月 7 日 (火)

【申し込み先】

※昨年度と変更に

なっています。ご注意ください。

※「出展作品一覧」も同封してください

計 報

横浜陶芸友の会 元会計部長を
された
椎橋 勇様が 令和元年 10 月に
ご逝去されました。
ここに謹んでご冥福をお祈り
するとともに
お知らせ申し上げます

懇親会

1 月 18 日 (土) 17 時

・ JR 東神奈川より徒歩
1 分「居酒屋 木曾」

・「会費」 五千五百円

<三時間呑み放題付き>

※搬入日の集合時間・場所
・ 9 時半に「会場入り口」です。
いつものように「整理券」を到着順に
お渡しいたします。

※出展される方は期間中会場当番(半日程度)
のお手伝いをお願いいたします。

秋の焼成会 (研修会) 報告
専修部

秋の焼成会無事終了

令和元年のテーマは、「鼠志野」。
「志野焼」はあこがれの一つですが、なか
なかその機会に恵まれないのが実情です。
そこで今回も井上専修部長のガス窯をお借
りすることになりました。

参加者は 9 人で、ぐい呑、茶碗、向付、皿
など多様で約 20 kg でした。

ぐい呑だけで 20 個以上出す人もいました。

9 月 29 日 (日) に
関内技能文化会館に
作品を持ち寄り、
下地に鉄化粧を施し
たり、鉄絵模様を
描いたりしました。

これらを 10 月 6 日に素焼
13 日に井上宅に集まり
釉掛けを行い、その後 2 回
に分けて窯を焚いて
いただきました。



井上さんの感想
では 1 回目
は釉薬が厚め
にかかった
ものは変化が
少なかった
ため 2 回目では
あまりにも厚く掛かったものは少し拭き取る
ことで薄っすらと緋色が現れたようです。



11 月 10 日 (日)
作品を手にする日
が来ました。
参加者の顔には
少なからず満足
の笑みがこぼれ、
ほかの作品と比べ
たり、お互いに
批評しあったり
楽しいひと時を
過ごしました。

まずは成功か!?



第 40 回 作品展 紹介 ③

昨年度の「作品展」の紹介が今回で終わります。いかがでしたでしょうか？

また、次回の作品展も掲載いたします。ご協力、よろしく願います。



「今年の作品」

鍋島弘義



「恵比寿さん」； 鯛の色が綺麗になかった
「湯呑」「花器」； (外)鉄赤 (内)透明釉
「コーヒーカップ」「小鉢」； 化粧土刷毛目
「飛びカンナの皿」； 粉引き後飛びカンナ
「中鉢」「小鉢」； 黒天目

○今年の作品について

・「恵比寿さん」は、鯛と岩と恵比寿さんと三体に分けて作りました。鯛の赤色が出なくて、くすんだ色になりました。残念。

来年は弁天さんかな？



「花器と酒器」

大日方 毅



「花器」・自然釉 ・信楽土(灰被り) ・穴窯焼成
「花器(蹲る)」・自然釉 ・信楽土(灰被り) ・穴窯焼成
「花器(蹲る)」・自然釉 ・信楽土 ・穴窯焼成
「德利」3点 ・自然釉 ・越前土 ・穴窯焼成
「ぐい呑み」2点 ・自然釉 ・信楽土 ・穴窯焼成
「ぐい呑み」 ・自然釉 ・越前土 ・穴窯焼成

○今年の一品について伺いました

・この「德利」が一番気に入っています。少し首が細い感じはしますが、細い首が好きなので口、首、肩の張り具合のバランスに注意して作りました。

酒を注ぐ時の音はまだ試してはいませんが「コッコッコ」といい音かするのではないかと思っています。



・この灰被りの花器も今年のお気に入りです。

問題はどうな花を活けるとその空間が生きるかなんですがね。



「今年の作品」

吉村希世子



「角花器」・古信楽 ・穴窯焼成 ・自然釉
「大 皿」・白彩磁 ・電気窯 ・透明釉
「木の葉皿」・古信楽 ・穴窯焼成 ・自然釉
「木の葉皿」・古信楽 ・電気窯 ・黒マット、白萩
「鉢(飛びカンナ)」・黒泥土 ・灯油窯 ・透明釉
「飯椀(飛びカンナ)」・黒泥土 ・灯油窯 ・透明釉

○飛びカンナの作品について伺いました

・この二つの作品は全く同じ様に焼いたのに片方は釉薬が飛んでしまいました。

素焼きに鉄絵を描いてオリジナルの透明釉を掛け還元で焼成したらこうなりました。

なぜ、こうなったのかお答えできません。

窯に作品をぎっしり詰め込んだので炎が入らなくて釉薬が溶けなかったのかしら？



「今年の作品」

井上 明



(左)穴窯焼成 (右)ガス窯焼成

- 「鼠志野湯呑」・志野土・穴窯焼成
- 「絵志野湯呑」・志野土・穴窯焼成
- 「絵志野湯呑」・オリジナル土・ガス窯焼成
- 「鼠志野飯茶碗」・オリジナル土・ガス窯焼成

○志野の作品についてです
 ・左側の志野は穴窯焼成の時一緒に焼いた物で、穴窯だと時間がかかり過ぎるので自宅で手軽に半分の時間で出来ないものかと思いい、長石を三種類混ぜて約半分の時間（それでも43時間）ガス窯で焼いたのが右側の作品です。比べてもらい、そこそこ「鼠志野」らしい物ができたので、今年の秋の焼成会で皆さんと共有したいと思い展示しました。

○艶のある「黄瀬戸」の話です

・今回の「黄瀬戸」の作品には「オリジナル土」と書いてあります。土を変え同じ釉薬、同じ焼き方でやっても、この黄色は出なくブレンドした土なので「オリジナル土」です。

穴窯で黄瀬戸を焼いた時ガス窯と全く違う黄色が出たのがヒントになり自分のガス窯で焼いたのが今回の作品です。

焼き方は、還元

でゆっくり 900℃

まで上げ、又 1150℃

から還元にし 1220℃

から1時間半ねらし、最後の30分だけ酸化に戻す。という、ほとんど還元焼き方です。普通「黄瀬戸」は酸化で焼くと言われているので正反対の焼き方になるわけです。

この釉薬は普通の焼き方だと発色がグレーになってしまいます。釉薬は安定性がある合成栗皮灰と本物の栗皮灰を半分以上入れて作っています。

以前「御本手」で赤斑を出すのに 950℃まで還元をかけ、1180℃まで酸化、そして最後まで還元にし最後の最後に酸化にしたら粉引きが全部真っ赤（ピンク）になったのもヒントになっています。

まだ2回しかこの方法でやっていないのでよく解らないけれど同じ色が出ています。不思議な現象を体験し、勉強になりました。今年、黄瀬戸と志野の掛け分けができないか研究してみます。

今年、黄瀬戸と志野の掛け分けができません。研究してみます。



「黄瀬戸鉢」・オリジナル土・ガス窯焼成
「黄瀬戸湯呑」・オリジナル土・ガス窯焼成



作品の制作説明会



- 「自然釉花入れ」3点・信楽(きのせ)土・焼締早出し
- 「自然釉花入れ」・信楽(きのせ)土・穴窯焼締
- 「自然釉花入れ」・信楽(彩)土・穴窯焼締
- 「自然釉梅花形水盤」・信楽(きのせ)土・穴窯焼締



・「花入れ」五点は、早出しから、たっぷり灰の掛かった物まで並べてみました。違いが分かり、おもしろいですね。



「今年の作品」 吉川 勝



「手付き鉢」・水肥 ・穴窯焼成 ・自然釉
 「鉢」・穴窯土 ・穴窯焼成 ・自然釉
 「鉢」・信楽赤 ・電気窯 ・粉引き刷毛目(鳴門の渦潮をイメージ)
 「マグカップ」3点
 A ・備前土 ・穴窯焼成 ・自然釉 B ・水肥 ・穴窯焼成 ・自然釉
 C ・信楽白 ・穴窯焼成 ・自然釉

○今年も独創的な楽しい作品について伺いました

まず、「鳴門の渦潮」をイメージした作品ですが、まるで木のように見える橋は？

・もちろん粘土です。
 大きさを考えながらワイヤーを張りました。
 最後にギョーと引っ張ったら端が折れちゃいました。



○この渦潮の鉢について

・渦は白化粧の生掛けです。
 稲藁の刷毛の穂先を平らに切りロクロを回しながら、たっぷり白化粧を付け一気に描きました。

○この「手付き鉢」もいいですね

・これは、身延の穴窯で最初で最後のちよつと大きめの作品です。



○マグカップの外側が金色ですが？

・穴窯で焼いた時、焼けてなかった自分の窯で鞆に炭を入れ焼き直しました。穴窯での灰のかかり方で同じように焼いても違いが出て、どんな色になるか窯から出るまで分からなかったのですが全部偶然ですよ。



「今年の作品」

徳植美和恵



「大皿」・黒のネイビーブルー
 「中皿」・黒のネイビーブルー
 「変わり皿」・信楽白土
 「中皿(飛びカンナ)」・信楽黒土、赤土
 「蓋物」・黒天目釉
 「蓋付き椀」・信楽赤土 ・黒天目青銅

○まず飛びカンナの皿について伺いました

・練習のつもりで裏を先にカンナをかけました。
 スピードは速い方がよく裏を見てもらいたくらしいです。

カンナ跡に白化粧を施し模様し素焼きの後透明釉をかけています。
 何回もカンナで削った割には模様がつながら、綺麗にできました。



○「漆塗り」のような碗について
 ・最初は普通の茶碗を作ろうと思ったのですが、ちよつと大きくなってしまいました。



黒天目だけではつまらないので教室の先生が自作した「青銅釉」を掛け分けました。

陶陶さん

第 97 号

あかほし



ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

横浜陶芸友の会だより
第 175 号

(令和元年 11 月 25 日発行)



「変わり皿」

○「変わり皿」について

- ・作り方は色粘土で層を作り板にする「練り込み」です。
- ・皆からよく聞かれるのですがこの溝は掘ったのではなく伸ばしたコイルを使った波形です。
- ・途中でちよつと捻ると段差が出来ます。



中皿(飛びカンナ)とイノシシ

○可愛い「イノシシ」について

- ・何かで見た事のある「金のイノシシ」を作りたくて先生に「金ってあるの」と聞いたらチューブ入りの金を出してくれました。
- ・だから、この金は釉薬ではなく絵具です。

【編集後記】

・ラクビーワールドカップ、日本初のベスト8でこの1か月間日本中が盛り上がりました。このパワーを引き継いで来年の作陶展、頑張りましょう。
(大日方)

・稲刈り、台風15号19号、大雨、後片づけ。あつという間に11月に。
粘土は菊練りのままで、今年も年末までに成形が出来るのか。

皆様の作品展の作品コメントを読みながら自分の実行力の無さを痛感しております。
(季楽軒)

・今回の会報の発行が、記事の関係や役員会の延期で遅くなりました。
次回は12月1日発行でもいいかもしれませんね。
(鍋島弘義)